

資料 2

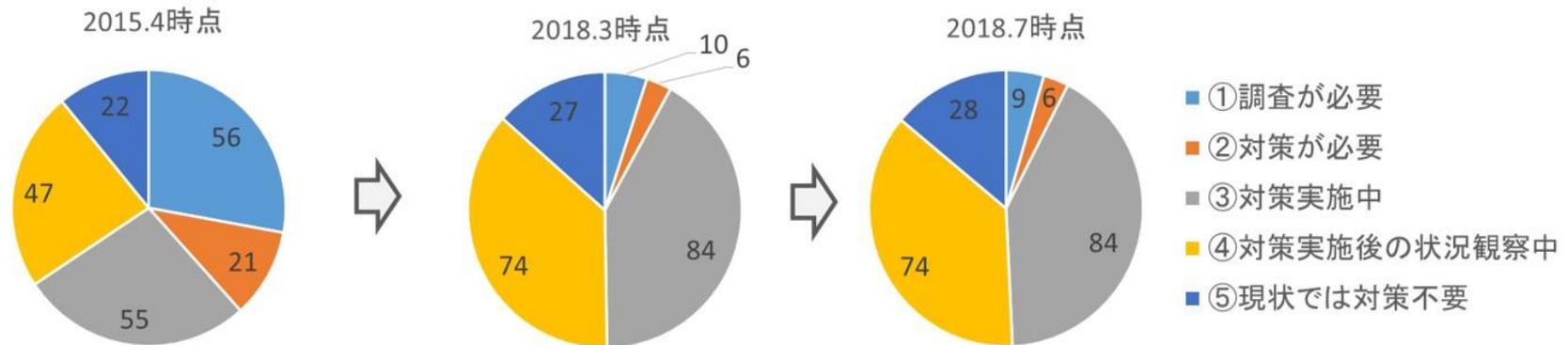
福島第一原子力発電所の敷地境界外に影響を与えるリスク総点検に関わる対応状況

2018年8月23日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

- 2015年4月、液体及びダストを中心に敷地境界外に影響を与える可能性があるリスクを広く対象としたリスク総点検を実施し、リスク低減対策の取組みは、環境変化等を反映し適宜見直しを行っている。



- 対策実施中（③）の案件のうち、以下の個別件名について状況報告する。
 - ・ No.63 「各瓦礫類一時保管エリア」

1. リスク総点検の個別進捗状況

リスク 総点検 管理番号	リスク存在箇所	リスク内容	対応概要	ステ ィタ
63	各瓦礫類一時保 管エリア	瓦礫類に付着した放射性物 質が、降雨時に瓦礫表面か ら雨水へ移行し、側溝等 (地下浸透含む)を經由し て環境へ放出される。	<ul style="list-style-type: none">一時保管エリアCの保管物整理 (2016年6月～)一時保管エリアCのシート養生 実施中 (2018年3月～)降雨時のモニタリング開始 (2018年5月～)	対 策 実 施 中

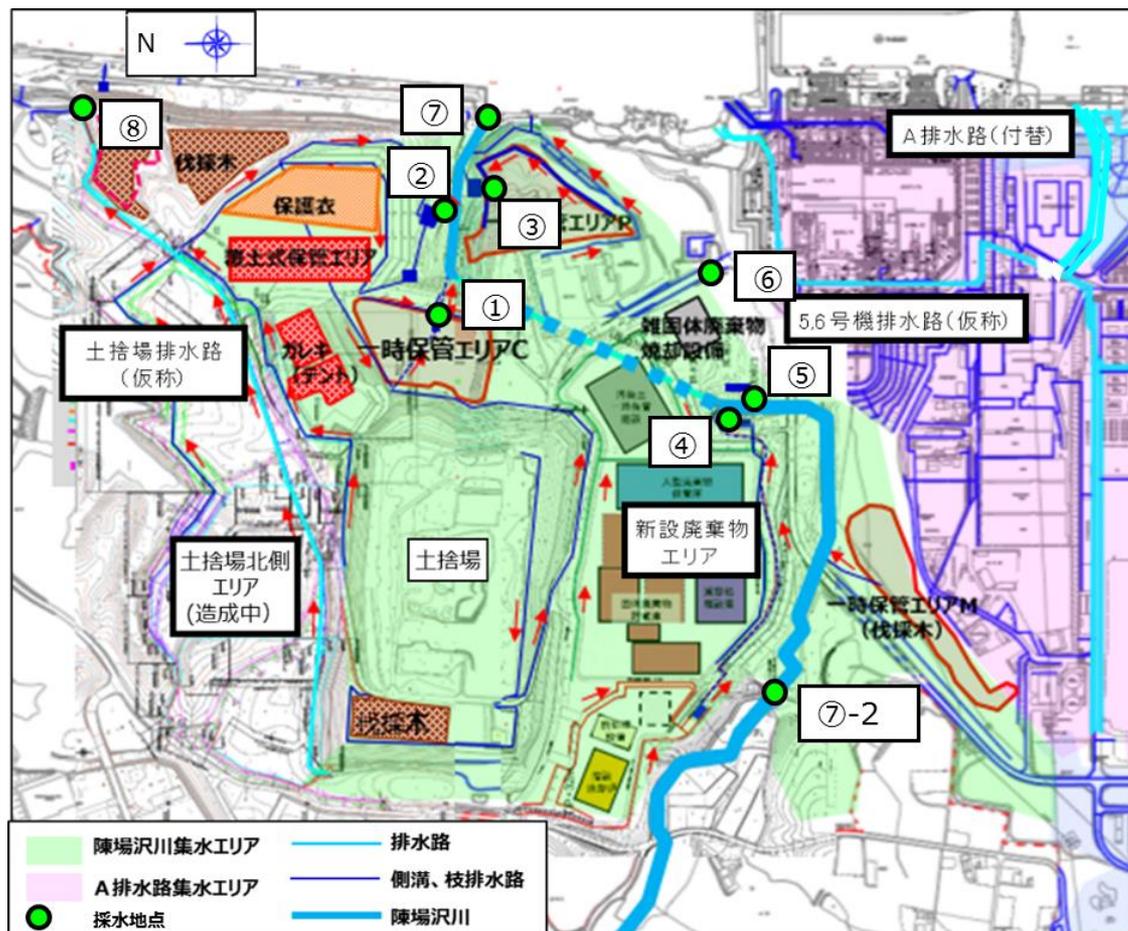
2-1.(リスク総点検番号：63) 敷地北側の雨水排水モニタリング

- 2018年5月14日から、敷地北側における雨水排水モニタリングを開始
- 下表の①、⑦、⑦-2の採水場所は降雨時に毎回採水、それ以外の採水場所は降雨時に月1回採水を実施

■ 分析項目：Cs、全β、H-3

■ 採水場所及び頻度（2018年7月～）

採水場所	採水頻度
①一時保管エリアC 集水枡	降雨時のみ
⑦陳場沢川河口	
⑦-2陳場沢川上流	
②覆土式保管エリア 沈砂池	1回/月 (降雨が無く採 水できない場合 もある)
③一時保管エリアP 排水枡	
④新設廃棄物エリア 沈砂池出口	
⑤雑固体廃棄物焼却炉 沈砂池出口	
⑥Fタンクエリア側溝	
⑧土捨場排水路（仮称）	



敷地北側の状況と採水位置図

2-2.(リスク総点検番号：63) 一時保管エリアCのシート養生の進捗状況

- 2018年3月より一時保管エリアCについてシート養生作業を開始。作業は一時保管エリアCを養生エリア①～④に分けて順次実施。2019年3月末に作業を完了する計画。現在の作業状況は以下のとおり。
- 一時保管エリアC集水枡（p3図中の①）は、5月に高い全β濃度（750Bq/L）を検出したが、その後は低下し、180Bq/L以下で推移。陳場沢川河口は低濃度（13Bq/L以下）で推移し、有意な上昇は見られていない。



工程表

一時保管エリアC

年度	2017年度												2018年度											
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
スケジュール	シート養生に向けた廃棄物の整理												エリア①											
													エリア②											
													エリア③											
													エリア④											
	保管廃棄物受け入れ												モニタリング											

2-3.(リスク総点検番号：63) 敷地北側におけるモニタリング状況

8月の台風に伴う降雨時に、一時保管エリアP排水枡（p3図中の③）で、セシウム137が99Bq/L、全βが360Bq/L検出したが、陳場沢川河口では有意な上昇は確認されておらず、外洋への影響はなかったと考えている。現在は、排水枡への水の流入はなく、陳場沢川への流出は継続していない。

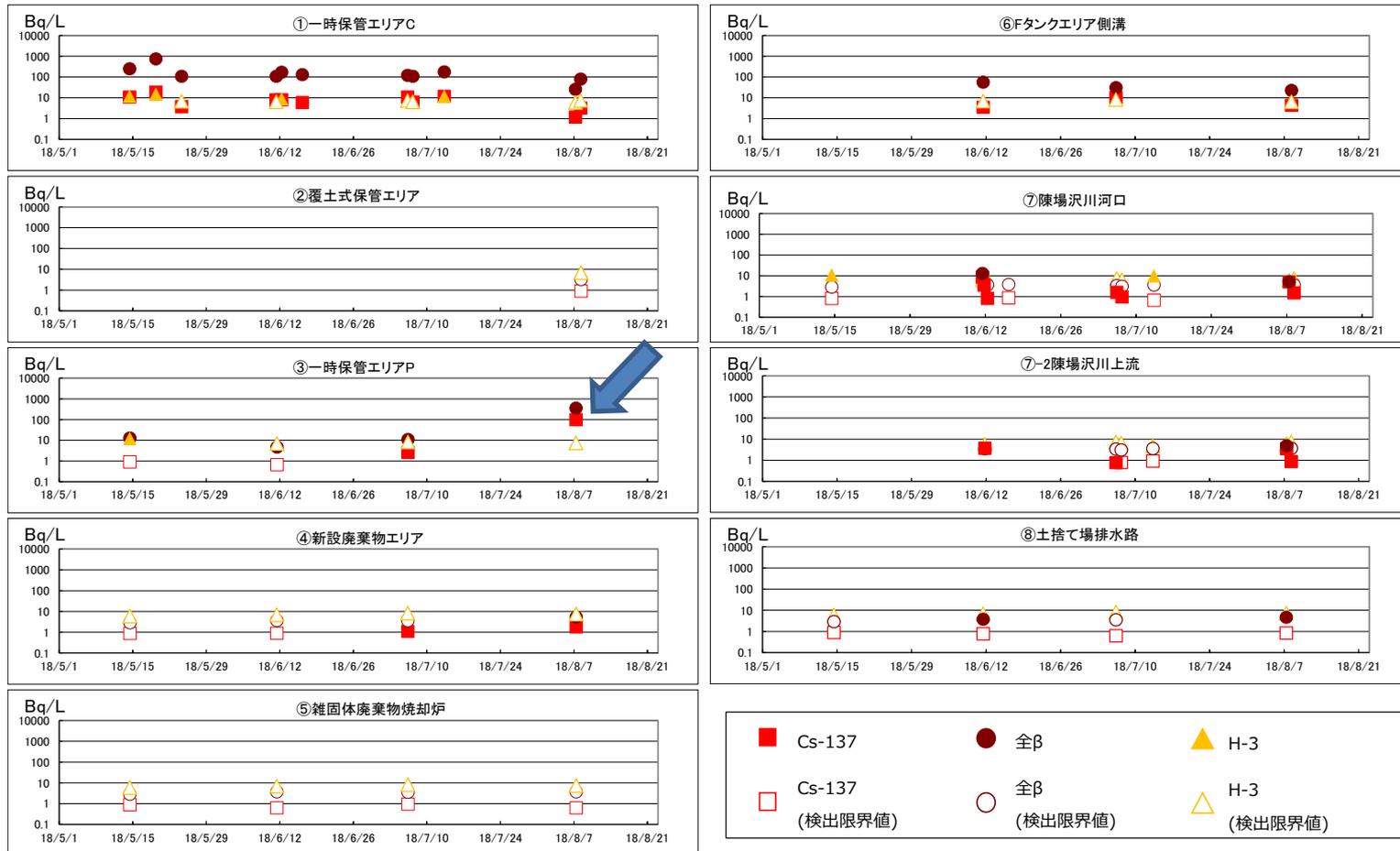


図 各調査地点における放射性物質濃度

- ◆ 一時保管エリアP排水枡は、一時保管エリアC同様に、低線量率の瓦礫類を屋外にて一時保管しているが、今回採取した水はかなり濁っており、側溝周辺には土砂が流入した形跡が確認できたこと、側溝内の土砂にも放射線物質が確認されたことから、台風時の降雨により、側溝に流れ込んだ土砂に付着した放射性物質が原因と考えられる。
- ◆ 応急対策として、一時保管している土砂のシート養生を行うとともに、側溝の清掃、ゼオライト土のうの設置を実施済み。今後は、作業管理方法を見直し（作業時以外はシートで養生）、土砂の流出防止に努める。



図1 採取した水
(濁った状態)



図2 流出時の状況 (推定)



図3 応急対策 (シート養生)



図4 応急対策 (土のう設置)